




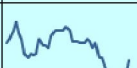




注目ポイント

- ✓一時、混沌とした日本の政局も、自民&維新の自維連立政権成立により、先週ようやく高市新総理大臣が誕生。金融市場では、いわゆる「高市トレード」が再度活発となり、株高&円安&金利高(債券安)が進んだ。
- ✓今週、注目は日米中銀の決定会合。日銀は「利上げ見送り」の見通しだが、展望レポートや植田日銀総裁の会見で、早期利上げに前向きなスタンスが示されれば金利上昇圧力がかかろう。一方、利下げが見込まれるFOMCだが、パウエルFRB議長が利下げを継続する姿勢をあらためて示すと、国内金利にも低下圧力がかかることになる。ドル円は、高市政権の積極財政への期待やトランプ米大統領来日による対米投資協議が円安材料となり円安ドル高が進む見通し。そして日経平均は、高値警戒感があるものの、「高市トレード」や海外勢の資金流入が継続する見通しから底堅い展開となろう。(門倉英司)

2025年10月20日 ~ 2025年10月24日

市場・指標			10月20日 ~ 10月24日		10月24日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
株式	 日本	日経平均 (円)	49,946	48,255	49,300	+1,718	+3.6%	
	 米国	NYダウ (ドル)	47,327	46,313	47,207	+1,017	+2.2%	
	 ドイツ	DAX (ポイント)	24,384	24,027	24,240	+409	+1.7%	

市場・指標			10月20日 ~ 10月24日		10月24日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			最高	最低	終値	変化幅(%)	
金利 (国債)	 日本	10年 (%)	1.670	1.640	1.655	+0.035	
	 米国	10年 (%)	4.02	3.94	4.00	-0.01	
	 ドイツ	10年 (%)	2.63	2.54	2.63	+0.05	

市場・指標			10月20日 ~ 10月24日		10月24日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	変化幅(円)	
為替	 米ドル (円)		153.06	150.28	152.86	+2.25	
	 ユーロ (円)		177.83	175.25	177.77	+2.30	
	 豪ドル (円)		99.59	97.55	99.57	+1.72	

市場・指標			10月20日 ~ 10月24日		10月24日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
その他	 日本	東証リート (ポイント)	1,982	1,936	1,967	+23	+1.2%	
	 米国	NY原油 (ドル)	62.59	56.35	61.50	+4.0	+6.9%	
		NY金 (ドル)	4,398	4,021	4,138	-76	-1.8%	

(注) Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成。休日・休場の場合は、その前営業日の値を使用して作成してあります。

②マーケット動向(振り返り&予想)

2025年10月27日 ~ 2025年10月31日

株式 底堅い展開か

日経平均
【予想レンジ】 48,500円 ~ 50,000円

- 先週の日経平均は大幅上昇。政局不透明感の後退から「FOMO(Fear Of Missing Out=取り残される恐怖感)」的な投資家の買いが優勢となり、日経平均は週初から連日で高値を更新。週中には利益確定売りから反落したが、押し目買いの勢いは強く、週末には再度、高値更新をうかがう展開となり4万9千円台で取引を終了した。
- 今週の日経平均は底堅い展開か。日米中銀の会合に加え、米中首脳会談など重要イベントが控えるなか、高値警戒感から一時的な調整も想定されるが、「高市トレード」の継続や需給面では海外投資家の資金流入が継続していることから、投資家の押し目買い意欲は強い。日経平均5万円突破への地合いはなお良好と見る。本格化する日米企業の決算発表にも注目しながら、買い場を探りたい。



金利(国債) もみ合いか

10年国債利回り
【予想レンジ】 1.620% ~ 1.680%

- 先週の国内金利は上昇。週初は日本の政局不透明感の後退に加え、日銀高田委員の「利上げに向け機が熟した」との発言が債券売り材料となり、10年国債利回りは1.67%まで急上昇。しかしその後は、米利下げ観測や高市政権の財政運営が思ったほど拡張的ではないとの見方が広がり、債券買い戻しが優勢となった。
- 今週の国内金利は、もみ合いか。注目は日米中銀の決定会合。日銀は、利上げを見送るとの見方が大勢だが、展望レポートや植田総裁の会見で、早期利上げに前向きなスタンスが示されれば金利上昇圧力に。一方、今回利下げが見込まれるFOMCだが、パウエルFRB議長が利下げを継続する姿勢をあらためて示すと、米長期金利の低下を通じて、国内金利にも低下圧力がかかることになろう。



為替(米ドル) 円安ドル高が進展か

米ドル/円
【予想レンジ】 151.50円 ~ 155.00円

- 先週のドル円は、大幅に円安ドル高が進展。週初から日本の政局不透明感の後退や高市首相就任による財政拡張・金融緩和観測が円売り材料に。週中には米中対立懸念で一時円買いも見られたが、世界的な株高を受けてリスク選好が強まり、円は下値を探る展開が続き24日には一時1ドル=153円台に突入する場面もあった。
- 今週のドル円は、円安ドル高が進展か。高市政権による積極財政期待やトランプ米大統領の来日に伴う対米投資協議などが円売り材料となろう。加えて日銀が政策金利の据え置きを決定し、年内の利上げ見送り観測が強まる場合には円安圧力に。一方、FOMCでFRBの金融緩和姿勢が明確になれば、ドル売りに傾くリスクに注意が必要か。



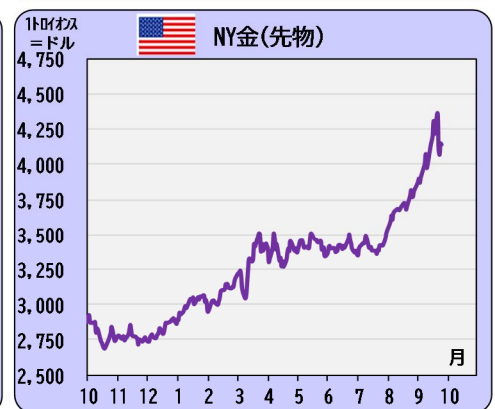
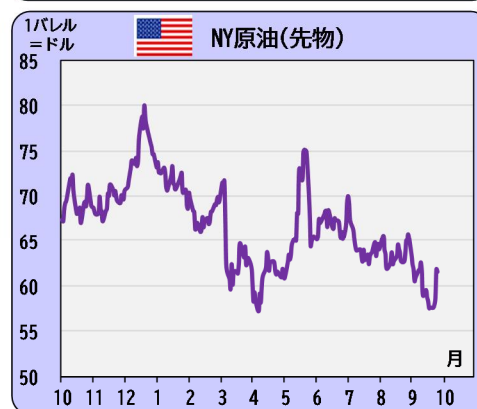
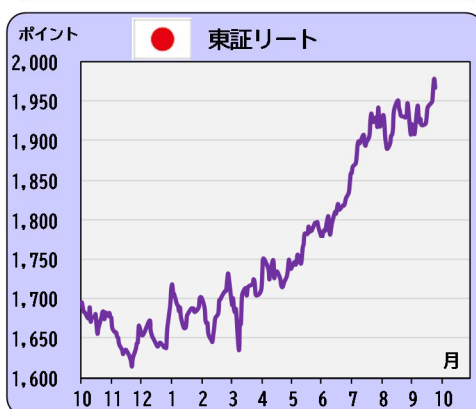
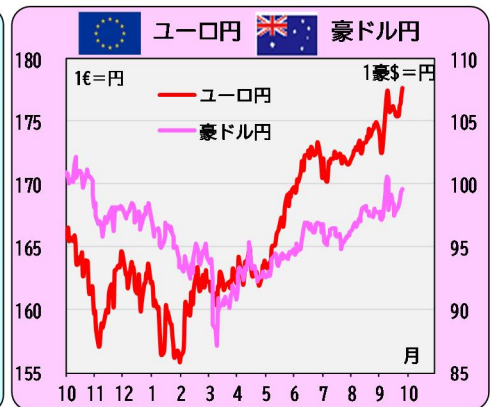
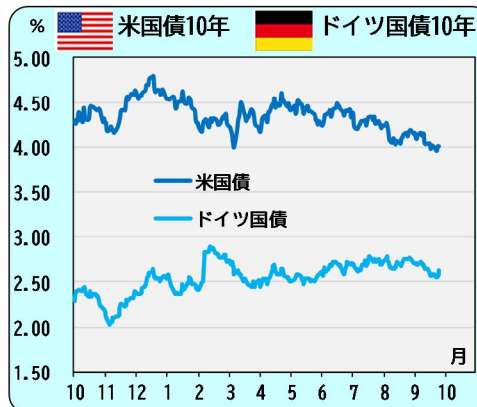
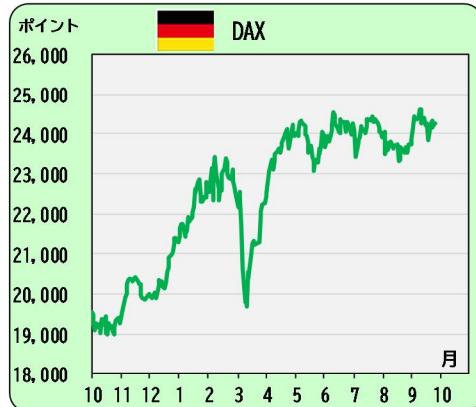
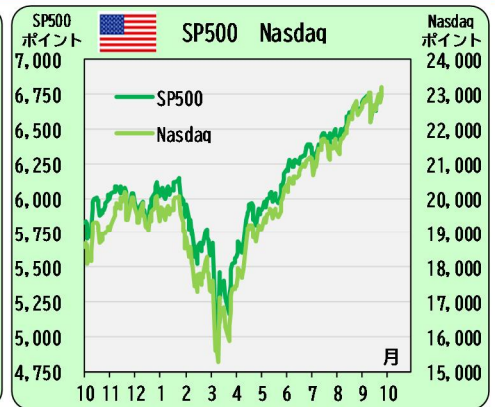
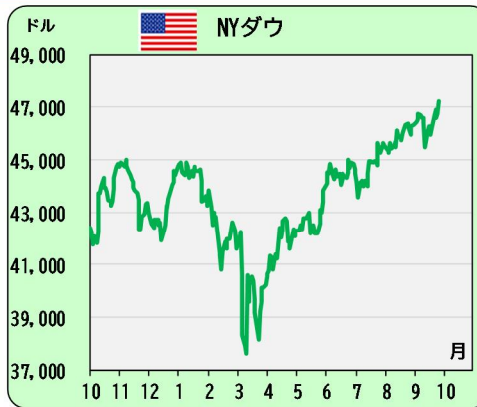
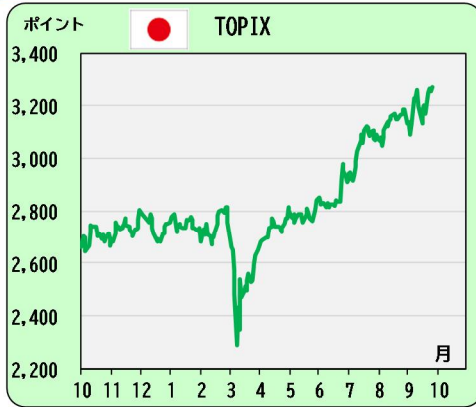
○今週の注目指標 ※内容および日程が変更される場合があります。

月日	国内	海外
10/27(月)	トランプ米大統領来日(~28日)	米国: 国債入札(2年) 国債入札(5年) 米国: 耐久財受注(9月)
10/28(火)		米国: FOMC(~29日) 米国: コンファレンスボード消費者信頼感指数(10月)
10/29(水)	日銀金融政策決定会合(~30日)	EU: ECB定例理事会(~30日)
10/30(木)	植田日銀総裁会見 経済・物価情勢の展望(展望レポート)	米国: GDP(7~9月)速報値
10/31(金)	国債入札(2年) 住宅着工統計(9月) CPI(東京都区部10月) 完全失業率(9月)	米国: 個人所得・個人消費支出(9月)



③その他チャート集

直近1年間



※頻出英字略称用語一覧

略称	正式名称	略称	正式名称	略称	正式名称
AI	人工知能	FRB	米連邦準備理事会	PCE	個人消費支出
CTA	商品投資顧問	FTA	自由貿易協定	PER	株価収益率
CTFC	米商品先物取引委員会	GDP	国内総生産	PMI	購買担当者景気指数
CPI	消費者物価指数	IMF	国際通貨基金	PPI	卸売物価指数(生産者物価指数)
ECB	欧州中央銀行	IEA	国際エネルギー機関	SQ	特別清算指数
ETF	上場投資信託	ISM	米供給管理協会	TPP	環太平洋経済連携協定
EU	欧州連合	OECD	経済協力開発機構	WSTS	世界半導体市場統計
FDI	海外直接投資	OPEC	石油輸出国機構	WTI	ウエストテキサスインターメディアート(原油)
FF	フェデラルファンド	OPEC+	OPEC加盟国と非加盟国の枠組み		
FOMC	米公開市場委員会	PBR	株価純資産倍率		

●ご留意事項

- ・本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、発行日午前9時までの情報にもとづく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源にもとづいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。最終的な投資判断はお客様ご自身でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートに関するお問い合わせは浜銀総合研究所・調査部までお願いします。